

2019

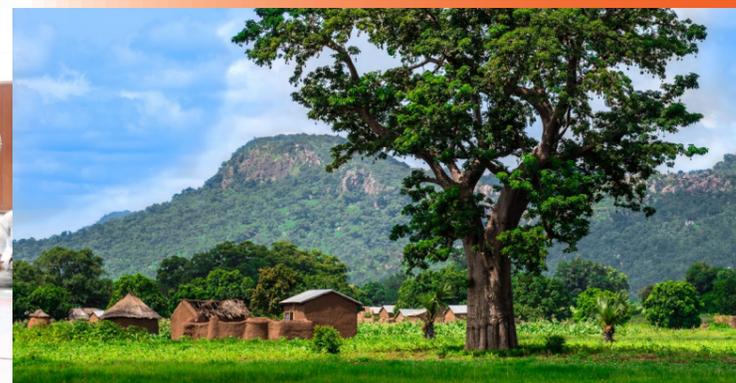
■ 8月23日(金)・24日(土)の2日間、第7回アフリカ開発会議(TICAD7)に参加するために来日した、ベナン共和国の音楽教師チアペ・ジェリーさんに、幸手市までお越しいただき、音楽交流を行いました。

※ 8月23日(金)は行幸小学校児童、24日(土)は吉田小学校児童および東中学校生徒と交流。

■ 7月10日(水)行幸小学校体育館で、駐日ベナン共和国大使館職員(参事官、一等書記官、総務官、財務官、通訳)による「ベナン紹介講演会」が行われました。また、5年生児童が林間学校に向けて練習しているフオークダンスと一緒に踊ったり、6年生児童と給食(ビビンバと春雨スープ)を味わうなど、交流を行いました。

■ 2月21日(木)から26日(火)までの期間、国の支援を得て、ベナン共和国の空手選手オセアンヌ・ギャニエロさんと、ウイダ音楽・芸術国際センターの音楽教師シャルレシオ・ド・スーザさんのお二人を招き、市内に滞在する期間、小学校児童をはじめ、多くの市民とスポーツや音楽を通じた交流活動を行いました。

ベナン共和国との交流



2018

ホストタウン登録までの経緯

■ 幸手市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加を予定している諸外国との交流事業の検討を進めてきました。

■ 7月24日(火)駐日ベナン共和国大使館で「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした交流事業の合意書」を取り交わしました。

■ 8月31日(金)内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部から、ベナン共和国のホストタウンとして登録(第9次登録)を受けました。

■ 解説/ホストタウン登録により、大会参加国との交流事業に対し、国の予算または地方財政措置による支援が期待できます。

ベナン共和国ってどんな国？

面積 112,622km² (日本の約3分の1)
 人口 1,148万人(2018年, 世銀)
 首都 ポルトノボ(Porto-Novo)
 民族 フォン、ヨルバ(南部)、アジャ(モノ、クフォ川流域)、バリタ、プール(北部)、ソンバ(アタコラ山地、トーゴ間)など 46部族
 ※外務省ホームページから抜粋。



ホストタウンとは

■ 各国から多くの選手や観客などが来訪することを契機に、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興などの観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として、国が登録する制度。

幸手市の取組み

■ 市では、子どもたちを始め市民のみなさんにオリンピックを身近に感じていただき、また心に残る大会となるよう、これからもベナン共和国のホストタウンとして関連事業を行っていきたいと考えています。

駐日ベナン大使もおすすめ！

ベナン共和国の郷土料理「タレタレ」を作ってみよう！

■ タレタレとは？

バナナをペースト状にし、小麦粉と塩を加え油で揚げた料理で、たまねぎや鷹の爪を加えたトマトディップを添えて食べる。

※作り方は、市ホームページで紹介！

